

第3節 建設行政を担う職員としての意識改革と能力開発

協働の精神 県民とともに

我々は、県民が、使い・活かしてさらに楽しめる社会基盤を創ることにより、県民生活・地域を豊かにすることを目的とする。そのためには、計画・整備・維持管理の各段階を通して、地域住民・NPO・企業など多様な主体と、ともに考えともに行動しながら協働の精神で進めていくことを大事にする。

地域づくりの実践、地域住民等との対話（フラット、フラック、フレキシブル）

長期的戦略的思考 深い洞察と責任

我々は、山形県を愛し県民・時代の要請を受けながら業務に取り組んでいくが、常に自らの世代に対する責任と次世代に対する責任を肝に銘じ、限られた予算で最大限の効果が発現されるよう、長期的でかつ戦略的な考えに基づき業務を遂行していく姿勢を大事にする。

県民・時代ニーズの把握、コスト意識、環境配慮、長寿命化、地域産業の育成

柔軟な発想 他分野との連携

我々は、地域の人々が安全、安心に暮らし、活力のある地域を創造するために最大限の努力を行う。そのため、土木・建築分野のみならず、関連する観光、産業などの分野の意見を聴き、柔軟な姿勢をもって、課題解決に取り組んでいく。常にしなやかな発想により多角的な検討と総合的な考えに基づき業務を進める姿勢を大事にする。

「しなやかな」とは、弾力がありたわむさまを意味するところから、ここでは、前例にとらわれることなく、周りのことがらに配慮できる柔軟な思考ということで使っている。

関連事業の理解、情報収集、多面的な検討

知識・技術の習得 自己研鑽

我々が創り出す社会基盤は、地図に載り歴史にも残る重要なものが多く、綿密な計画のもと整備を行っているが、時として完成後の効果が当初予測と乖離するなど、未知の領域が存在することも事実である。常に自己研鑽に努め、体験や学習で得た科学的知見を活かして、社会経済の変化を良く読みとり柔軟な発想のもと、様々な課題解決方策を提案し実行していくことを大事にする。

土木技術、基準や構造令の理解、現場経験、IT技術、アセットマネジメント

プレゼンテーション力 県民の理解と共感

アカウントビリティを果たすためや新規施策の立ち上げ時等、様々な場面での確でわかりやすくその意図を説明できる力を身に付ける必要がある。この力は先天的な能力ではなく、訓練により磨かれる能力であり、自分の考え方の整理が出来て初めて可能となる。我々自身の人間性を豊かにし、県土をつくることの気概、哲学を育てていくためにも大事にする。

理解力、説明責任（アカウントビリティ）、コミュニケーション

第4節 時代の変化への対応や課題

建設行政を進めていく過程において、我々は、様々な新たな課題に直面することが予想され、その時々課題解決に向けて最善の努力をしていかなければならない。

また、社会基盤は時代とともに変化していくものであり、県民のニーズに合わせ、常に求められる公益を考えなければならない。

そのため、引き続き、様々な課題や新しい社会基盤について調査・研究を行っていく必要がある。

当面考えられる主な事項としては次のようなことがらが上げられる。

- 1．社会基盤の最適な維持管理のあり方
- 2．雪対策のあり方
- 3．地域特性に応じた災害時の孤立防止対策のあり方
- 4．社会基盤として情報基盤の整備活用のあり方